

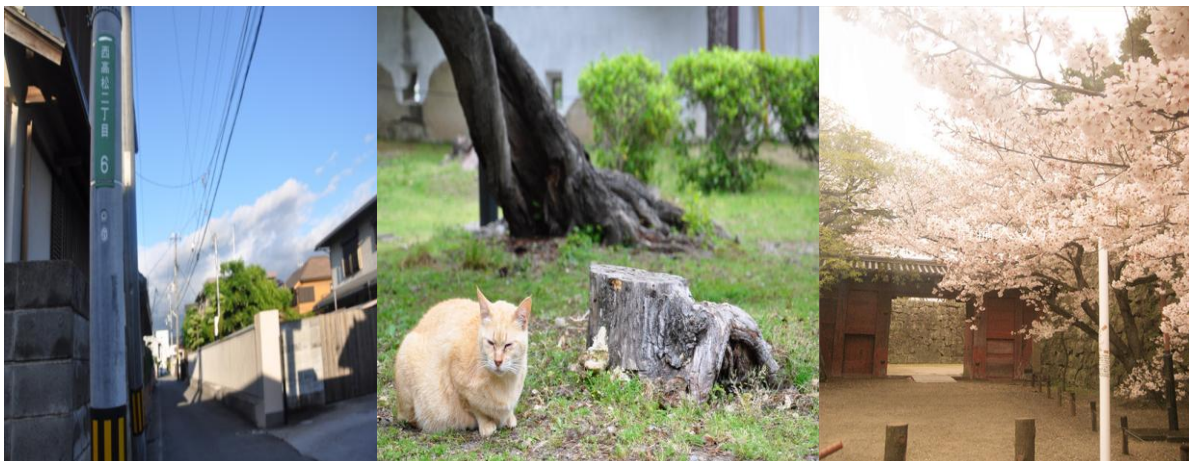
和歌山市のまちづくりについて

李 慧

(中国・交換留学生・三東師範大学)

最近、県庁の方々が日本事情の授業に来られて、留学生と一緒に和歌山市のまちづくりについていろいろと検討した。各自が意見を交換し、お互いに理解を深めて、いい勉強になった。

日本に来る前に、「郷土教育」という言い方を聞いたことがあまりなかったので、その内容をはっきり知らない。和歌山に留学後、学校の先生、県庁の方々が、郷土教育の深い概念である郷土や郷土を愛することを教えてくれて、郷土の発展に尽くす青年を育成するのは郷土教育の目標だということを私に理解させてくれた。私たち留学生は和歌山に来て短期間住んでいるだけだが、和歌山の人々の郷土に対する深い愛着の気持ちに感心し、自分自身も和歌山の発展に力を尽くしたいと思うようになった。



和歌山のいいところといったら、環境の美しさ、静かさ、住みやすさなどがあげられる。今年四月、日本に来たばかりの時、町のあちこちに咲いている花を見て、気持ちいいと感じ、和歌山に一目ぼれしたと言っても過言ではない。それに、日本風の特有な一戸建てをととても気に入った。

授業で、同じグループのメンバーは和歌山の住宅は多種多様で調和がないと言った。私から見れば、この点が和歌山の特徴なのかと思う。

東京や大阪のような大都市は確かに高層マンションやデパートが林立している。皆が同じような建物に住むのは、何だか自宅に対する個性的な欲求が抑えられているような感じがする。

しかし、和歌山の人々は優しくしてくれて、物価がそんなに高くないので、われわれ留学生は気楽に暮らせる。

問題点については、まず、みんな「和歌山はちょっと田舎の感じがする」と言っていた。確かにそうだ。基本的な生活物質は満足できるが、もっと服や化粧品といった贅沢品など

を買いたい場合には、近くの大阪や京都に行かなければならない。娯楽街、飲食街など壮大な規模の販売中心地があまりない。従って、夜の和歌山市は非常に寂しい。住民は自分の家に閉じこもっているため、地域の経済発展にも悪い影響を与えるのではないだろうか。いつも周りの人から「ブラクリ丁」の話を聞いている。残念なのは、今の「ブラクリ丁」は昔のような繁栄の光景が全然見えないことだ。これから、ブラクリ丁を復興することは賢明な決定だと思う。各種の店舗の選択、組み合わせ、広告宣伝などいろいろ工夫を試みなければならないが、和歌山市の住民、特にお年寄りのブラクリ丁に対する親近感を復興を促進するのに有効である。ガーデンパークのような総合娯楽センターは欠かすことができない。映画館、電子ゲーム、飲食店、書店などを揃えた娯楽センターは、将来きっと大人気になると予想できる。ただし、消費価格はもっと低いほうがいいと思う。そうすれば、学生や若者でも気軽に行くことができる。

次に町の特徴は町の魂だと言って過言ではない。和歌山市は同じレベルの中核都市に比べると、その特徴がほとんど見えない。和歌山城、高野山のような歴史的な景観があっても、梅、みかん、高野豆腐のような名産があっても、知名度はそんなに高くない。東京と言ったら東京タワーだ。大阪と言ったら、難波だ。沖縄と言ったら、海だ。京都と言ったら、紅葉だ。和歌山の自慢はいったい何か？実はいろいろある。たとえば、みかんをかわいいうキャラクターにして、町のあちこちに「みかんちゃん」の彫刻を配置する。今後、和歌山と言ったら、オレンジ色のイメージにすればいいのではないだろうか。

また、和歌山城以外に、和歌山市を象徴する建物がほとんどない。都市広場を作って、そこでいろいろなイベントを行うほうがいいのではないだろうか。

郷土のよさや問題点を知り、郷土に誇りを持ちながら、発展させていこう！環境に恵まれ、文化的なよりよい和歌山市を作ろう！

(東京 ↓)



(和歌山市 ↓)



(ぶらくり丁→)

